

まちづくり指標 令和4年度進捗評価

【住む】

集落・地域の活性化と移住・定住の促進

数値
目標

転出超過を年間 245 人までは正
(平成 27 年国勢調査：年間 359 人)

集落・地域の活性化と自主自立のまちづくりの推進。いつまでも住み続けられ生活しやすい環境づくりと移住希望者をスムーズに受け入れるための仕組みづくり。

【重点戦略数値目標の実績】 転出超過 年間 251 人 (R4 住民基本台帳ベースの参考数値)

【全体評価】

地域おこし協力隊の活動に関わるコーディネーターの配置により、引き受け団体との連携を密にし、隊員の活動支援を継続的に行うことで、地域への関わりを深めることにつながり、任期終了後の定住率は目標を上回る結果となった。また、地域おこし協力隊 OB・OG による自主的な取組として移住支援団体が立ち上がり、本市への若者の移住を推進する活動が生まれた。

空き家活用に係る取組については、YouTube や Instagram による空き家物件情報や宍粟市 PR 情報の発信強化や、定住コーディネーターの配置による相談体制の充実により、空き家バンク制度を中心とした移住定住の推進に取り組み、空き家利活用の相談件数や登録件数は増加し、5 年間平均の成約率も上がり、移住・定住の促進につなげることができた。

公共交通による移動手段の確保、高齢者の介護予防、スポーツ活動の推進については、現状維持または増加させるべく各事業に取り組みしたが、コロナ感染症の影響は大きく、路線バス利用者数、公共スポーツ施設利用者数、いきいき百歳体操に取り組みむ割合は、大きく減少した。今後はコロナ感染症の収束に伴い活発な地域活動が見込まれる中で、公共交通についてはバス事業者と連携した乗車体験会の実施や路線の見直しにより利用者確保を図り、スポーツその他の地域活動の推進については、市民の様々なニーズに合わせた支援を継続していく。

重点戦略数値目標に掲げる転出超過数の是正においては、年々減少幅は改善されていることから、今後も各分野の施策を横断的に展開することで総合的に成果を上げていけるよう、庁内連携による各施策の情報共有や実施計画における事業精査を行っていく。

【評価に関連する主な基本施策・個別施策とまちづくり指標実績】

関連する 基本施策・個別施策	まちづくり指標				
	指標名	単位	現状値 (R2)	実績値 (R4)	目標値 (R8)
参画と協働・男女共同参画の推進 ①自主自立のまちづくり	地域おこし協力隊員の受入人数【累計】	人	12	17	18
生活圏の拠点づくりの推進 ①生活圏の拠点づくりの推進 ②公共交通ネットワークの充実	路線バス利用者数【延べ】	人	286,163 (R1)	226,031	254,700
スポーツ活動の推進 ①生涯スポーツ活動の推進	公共スポーツ施設利用者数【延べ】	人	152,840 (R1)	111,416	現状値を維持
高齢者福祉の充実 ①地域包括ケアの充実 ②高齢者の生きがいづくり・介護予防事業の推進	65歳以上の市民のうち「いきいき百歳体操」に取り組みむ人の割合	%	15.5 (R1)	12.78	17.6
移住・定住促進の充実 ①移住・定住の促進 ②空き家活用の推進	転出超過人数	人	322	251	233
	地域おこし協力隊員の任期終了後の定住率【累計】	%	57.1	70.0	60
	空き家バンク制度による登録件数	件	42	56	60
	空き家利活用などの相談件数	件	45	60	107
	空き家バンク制度による登録物件に対する成約率(5年間平均)	%	33.6 (H28~R2平均)	38.6 (H30~R4平均)	現状値以上 (R4~R8平均)

【働く】

雇用の創出と就職支援

数値
目標就業率の現状維持
(平成27年国勢調査：56.9%)

産業の活性化と異業種連携による雇用創出に向けた積極的な産業振興策や女性や高齢者等の就業促進による地域経済の活性化。市内又は通勤圏内での若者の就職支援の取組。

【重点戦略数値目標の実績】 就業率 57.8% (R2 国勢調査結果の参考数値)

【全体評価】

林業の振興では、森林施業の団地化・集約化によるコスト削減を目的に森林経営計画の作成を推進するとともに、計画作成が困難な条件不利地の森林においては、切捨間伐などの費用支援により持続的な間伐事業を実施し、災害に強い森林づくりや木材の安定供給に寄与することができた。また、新規事業体育成支援の充実により林業事業体数は目標値を上回ることができた。

農業の振興では、水稻・黒大豆・小豆・山椒の4品目の生産実証を実施し、生産拡大やブランド化に向けた取組を進めた。人・農地プラン策定については、年間の策定目標数は達成できなかったが、策定に興味を示す地域を中心に前出講座や説明会等を実施することで、策定数の増加に努めるとともに、新規就農や農業機械導入に対する補助等により認定新規就農者・認定農業者への誘導を図り、担い手確保に努めた。

商工業の振興では、総合的な仕事の相談窓口「わくわ〜くステーション」において、求人開拓、就職相談及び職業紹介など、就職・就労活動における手厚い支援を行い、当該施設を通じた就職者数は目標値を上回ったほか、宍粟市人財力フル活用プラットフォーム推進会議を主体とした合同企業説明会の開催や実践型インターンシップなどを実施し、企業の魅力発信や人材育成を行った。

重点戦略数値目標に掲げる就業率については、企業による人材不足が大きな課題となっていることから、広域的な人材確保に向けた取組を強化するとともに、DXの推進により就業率を維持し、人材不足解消に努めていく。

【評価に関連する主な基本施策・個別施策とまちづくり指標実績】

関連する 基本施策・個別施策	まちづくり指標				
	指標名	単位	現状値 (R2)	実績値 (R4)	目標値 (R8)
林業の振興 ①宍粟材流通の拡大促進 ②担い手の確保・育成 ③林業生産基盤の整備	林業事業体数	組織	23	33	28
	森林大学校卒業生の市内森林林業関係企業などへの就職者数	人	0	3	6
	人工林整備率(間伐事業)	%	33.8	39.7	44.6
農業の振興 ①生産の振興と流通の促進 ②担い手の確保・育成 ③農業生産基盤の整備	認定農業者数	人	32	33	44
	集落営農組織	組織	63	63	69
	耕作放棄田率	%	10.5	10.9	現状値 以下
	農林業被害額	千円	18,684	11,807	8,000
	食料自給率(カロリーベース)	%	40.0	41.0	45.0
	人・農地プラン策定数	件	8	21	56
商工業の振興 ①中小企業の経営安定化 ②企業誘致の推進と起業家支援 ③6次産業化・産業間連携の促進 ④就職支援の充実	製造品等出荷額(4人以上の事業所)	億円	655.9	573.4(R3)	現状値 を維持
	従業者数(工業統計)	人	3,049	2788(R3)	現状値 を維持
	総合的な仕事の相談窓口(宍粟わくわ〜くステーション)を通じた就職者数	人	181	201	192

**【産み育てる】
少子化対策**

**数値
目標**

年間 165 人の出生数
(令和 2 年国勢調査：年間 202 人)

女性が自分らしく活躍することができる社会の構築。結婚や子育て等への不安・問題の解消やそれを望む人の願いが叶う取組の推進。子どもや子育て世帯が安心して暮らせる地域実現に向けた取組。

【重点戦略数値目標の実績】 出生数 168 人 (R4 住民基本台帳ベースの参考数値)

【全体評価】

子育て支援の充実に向けては、妊活カップル応援金給付事業、乳幼児健診・健康診断事業、病児・病後児保育施設「そらまめ」の運営等の事業を展開し、コロナ禍により子育て家庭の孤立が問題視される中で、妊娠から出産、子育て期までの切れ目のない支援を継続して行った。子育て支援センターの利用組数(延べ)は、令和 2 年度以降コロナ感染症の影響で大きく減少しているが、コロナ感染症の収束に伴い事業への参加者は増加傾向にあり、今後は木のおもちゃで遊ぶ宍粟木育おもちゃ広場事業など宍粟市の特色を活かした子育て支援事業にも取り組んでいく。

また、学校教育の充実に向けては、学校給食において発酵食品や地元の食材を使用した学校給食メニューが第 17 回全国学校給食甲子園で日本一に選ばれるなど、食育の取組で成果を上げることができた。食べよう宍粟のめぐみ(給食用地元食材)利用率は、食材の高騰や学級閉鎖等により食材調達量と使用量が減少したこともあって、令和 4 年度実績は減少したが、継続して食育に取り組むことで子どもたちの心と体の成長に向けた基盤づくりを進めていく。

その他、出生数の増加に向けた課題としては、近年の未婚・晩婚化の傾向があげられる。婚姻数の増加に向け、近隣 2 市 2 町の定住自立圏内における婚活イベント、婚活カフェ、消防団出会い応援事業の開催により、積極的な婚活支援に取り組んだ。今後は、兵庫県出会いサポート事業との連携による合同説明会や県のマッチングアプリの活用など、時代に合った新たな展開を図ることとしている。

最後に、重点戦略数値目標に掲げる出生数については、令和 2 年度水準を維持しており、出生数の維持・増加に向けては、結婚から妊娠、出産、子育てに関するあらゆる不安を取り除く取組や、地域や社会で子育てを支える体制づくりを進めていく必要がある。今後、コロナ感染症が収束に向かう中で、対面による支援の強化や地域での子育て交流の機会増加を図る取組もあわせて推進していく。

【評価に関連する主な基本施策・個別施策とまちづくり指標実績】

関連する 基本施策・個別施策	まちづくり指標				
	指標名	単位	現状値 (R2)	実績値 (R4)	目標値 (R8)
子育て支援の充実 ①子育て支援の充実 ②地域や社会で子育てを支える体制づくり ③保育ニーズへの対応	出生数	人	170	168	163
	子育て支援センター利用組数【延べ】	組	499 (R1)	410	603
学校教育の充実 ①生きる力(確かな学力、豊かな心、健やかな体)の育成	食べよう宍粟のめぐみ(給食用地元食材)利用率	%	70.6	68.4	77.5
移住・定住促進の充実 ③出会いの場の創出・結婚支援	結婚相談員や結婚相談所を通じた成婚者数	組	3	2	5

【まちの魅力】
選ばれるまちづくり

**数値
目標**

年間 116.5 万人の観光入込客数
 (令和元年度：97.9 万人)

森林(もり)の魅力を中心とした様々な体験を通じてイメージや認知度を向上。播磨圏域連携中枢都市圏等との連携による広域的な魅力発信。訪問、滞在など交流人口、出身者やしごと・学びなどによる関係人口の増加。

【重点戦略数値目標の実績】 観光入込客数 85.7 万人

【全体評価】

観光の振興では、山崎市民局跡地を観光駐車場として整備し、観光客等の受け入れ体制強化を図ったほか、「日本酒発祥の地・発酵のふるさと」の推進に向けて、宍粟市発酵のまちづくり推進協議会を中心とした「しそ酒粕フェア」を開催するとともに、第 17 回全国学校給食甲子園で優勝した発酵食品を取り入れた地産地消メニューを市内レストラン（伊沢の里）で提供するなど、発酵食の普及と知名度向上に取り組んだ。

観光入込客数については、コロナ感染症の影響減少に伴って徐々に回復を見せているが、宍粟市の特産品等を取り扱う道の駅の利用者数や豊かな森林資源を生かした森林セラピーの体験者数については実績が伸び悩んでいる。選ばれるまちづくりに向けては、民間企業の営業ノウハウを活用した効果的な営業活動（宍粟市営業部）の展開により、地域資源を活用した企業との関係構築、企業研修等の誘致を積極的に行い、市内アウトドア施設との連携や電動アシスト付き自転車（E-BIKE）の活用もあわせ、道の駅利用者数・森林セラピー体験者数の増加を図っていく必要がある。

また、森林・田園・まち並み景観の保全については、「森林」をキーワードとした「選ばれるまち」に向け、本市の豊かな森林の恩恵や森林保全の大切さ、市の取組などを記載したリーフレットを作成し、市内外の企業等へ広く発信を行ったほか、豊かな自然と受け継がれた歴史、人の営みなど有形無形の風景を守り育てていくことの大切さや将来の方向性を示す「宍粟市風景ビジョン」を策定し、様々な分野において風景の視点を取り入れるための啓発を進めた。

今後は、風景の視点を様々な施策に浸透させることで、森林・水辺空間をはじめとした自然環境やまち並み景観の保全だけでなく、そこに住む人・訪れる人に宍粟市の魅力を発信していくことで、交流人口・関係人口の増加、観光入込客数の増加を図っていく。

【評価に関連する主な基本施策・個別施策とまちづくり指標実績】

関連する 基本施策・個別施策	まちづくり指標				
	指標名	単位	現状値 (R2)	実績値 (R4)	目標値 (R8)
観光の振興 ①観光資源の有効活用 ②体験型ツーリズムの推進 ③観光客受入体制の充実 ④魅力の発信の強化	観光入込客数【延べ】	千人	979 (R1)	857	1,165
	道の駅利用者数【延べ】	千人	422 (R1)	330	441
	森林セラピー体験者数【延べ】	人	597 (R1)	650	3,000